



かけはし

教育目標

- 学び合う子
- つながり、支え合う子
- たくましい子



武蔵村山市立第九小学校 令和8年1月8日

活躍する子供たち

校長 吉成かおる

明けましておめでとうございます。今年は午年（うまどし）。力強く前に進む馬のごとく、子供たちが成長、活躍していけるよう、教職員一同努力してまいります。

さて、子供の「活躍」というと、人前に出て発表したり、試合で優勝したり、大きな賞を取ったりなど目立った成果をあげるものと捉えがちですが、私は決してそういうことだけではないと考えています。他の人には知られなくても、その子なりに努力し、昨日より今日、今日より明日と少しずつでも成果をあげていることがあれば、それはもう成長であり活躍です。九小にも、そういう子供たちがたくさんいるので紹介します。

ある日、2年生の子が「7の段を聞いてください。」と校長室を訪れました。2年生は「九九を完全に唱えられたら合格のサインがもらえる」という取組をしていて、難しい4、7、9の段の九九は最後に校長、副校長の前で唱えることになっています。この子はみんなが遊んでいる昼休みに、何度も一人でチャレンジに訪れ、一番初めにすべての段に合格しました。この子の努力は、多くの人の目に触れることはなかったかもしれませんが、本人はもちろんのこと、ご家庭では、頑張った子供の「活躍」をしっかり受け止めてくださったことと思います。



また、別の日、鉄棒の逆上がりがうまくできなかった1年生が、それは毎日毎日、中休みも昼休みも練習に励んでいました。そのうち、体を鉄棒に引き寄せるタイミングが合うようになり、ある日の中休みに、「先生、見て!」と言って、上手に回れるようになった逆上がりを披露してくれました。晴れやかな笑顔に思わず大きな拍手を送りました。逆上がりは大会の優勝等とは違います。しかし、この子にとって、毎日の少しずつの積み重ねが大きな成果を生むという経験は素晴らしい成果であり、粘り強く取り組む姿勢が周りに与えた影響は大きな「活躍」に他なりません。

もちろん、大勢の人の前で成果をあげることも、それまでの積み重ねがあつてのことですから、それが素晴らしいことには変わりはありません。私たち大人は、どんな子供たちの頑張りも見逃さず、価値づけていけるようにしたいと思います。これからもご家庭と一緒に子供たちの成長と活躍を大いに賞賛していきましょう。